

Ⅰ・Ⅱから解答する問題を一つ選んで、あとの設問に答えなさい。

Ⅰ

資料1「フォーラム 長袖を脱がない子どもたち：1 当事者は」（朝日新聞 2024 年 6 月 30 日）は、小学校、中学校、高校で、夏でも長袖を着る子どもたちがいることについて、さまざまな角度から考える特集記事の一部である。これを読んで次の問いに答えなさい。

なお解答用紙には、各設問の論述の最初に「問1：」、「問2：」と記し、それに続けて記述すること。

- 問1. 資料では、子どもたちが夏でも学校で長袖を着ている理由として、どのようなことが示されているか、250 字程度で説明しなさい。
- 問2. 中高生について資料で示されているのはいずれも制服に関する事例である。暑い日でも長袖を着ている子どもたちを心配する声もあるが、通学の服装のルールを変えることで、状況が変わる可能性はあるだろうか。あなたの考えを 550 字程度で論述しなさい。

Ⅱ

資料2『孫は「家なき子」 新築、建てられず』（日本経済新聞、2024 年 1 月 15 日）は、日本の住宅問題に関する記事である。この記事を読んで、以下の設問に答えなさい。

なお、各設問の論述の最初に「問1：」、「問2：」と記し、それに続けて記述すること。

- 問1. 国内では住めない、あるいは住みにくい空き家が増加傾向にある。その理由について、この資料から読み取れることを 250 字程度にまとめなさい。箇条書きでもよい。
- 問2. その対策として、この資料では空き家の所有者と解体業者との仲介企業や、建築会社の効率的な業務管理手法について紹介されている。今後、空き家をどのように利活用すればよいだろうか？あなたのアイデアを 550 字程度で説明しなさい。

資料1:「フオーラム 長袖を脱がない子どもたち:1 当事者は」(朝日新聞 2024 年 6 月 30 日) ※引用にあたり一部の見出し記事後半部分を省略した。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

I

出題意図

- ・生活文化デザイン学科での学びに関する基本的な関心を確認する。
- ・文章解読能力、資料内容を整理し論述する能力、資料に対する自身の考えを適切に論述する能力を確認する。

解答例

問1

夏でも長袖を着続ける理由は多様である。まず、何らかの意味で自分を隠す、守る、という本人の内面に関わる理由がある。毛深さを隠したいなど身体に関するコンプレックスを隠す、という理由のほかに、何らかの生きづらさを抱えている自分を守りたい、という心理もみられる。リストカット痕を隠すことにもこの性格がある。より一般的な理由として、中高生の制服に関する調査では、教室がエアコンで寒い、日焼け対策など一般的な身体保護の目的も3割前後あり、周囲への同調、ファッションとしての選択等の理由もみられた。(242字)

問2

夏でも長袖を着続けることには多様な背景があるが、通学服を自由にすれば、多くの側面で状況がよりよくなることが期待できると考える。まず長袖でも通気性のよい夏向けの素材や形のアイテムを着ることができ、熱中症の心配は減る。例えば薄地の長袖シャツ、半袖に合わせる薄い長袖の羽織りものなどが考えられる。制服の制度は保ち、選択できるアイテムを増やすことで対応することも考えられるが、コストの面でも現実的ではない。「制服」を残すとしたら、最低限の基本アイテム(例、スカートやパンツ類)のみを定める程度でよいのではない。

自分の心を守るために身体を覆いたい子どもにとっても、身体にコンプレックスがある子どもにとっても、通学服が自由で多様であるほうが楽に過ごせるのではないだろうか。いろいろな理由で夏でも長袖にこだわりたい子どもたちがいて、それぞれが自分で選んだ結果として様々な長袖の装いがある状況の方が自然だ。もちろん、生きづらさを抱えている状態自体が解決するわけではないから、周囲の大人の目配りは、制服のあるなしにかかわらず、大切であることには変わらない。

多様性を尊重し、他者と自分自身を受け入れる姿勢を身につける上で、服装は自由に選択できたほうが良い。一人ひとりの異なる姿を尊重する姿勢を学校生活を通して学ぶのは、重要なことだと考える。(561字)

II

出題意図

2050年のカーボンニュートラル社会を目指し、政策上は新築住宅をZEH水準に引き上げようとしている。しかしながら、その足元では、築50年以上の中古住宅が数多く存在しており、これらの耐震性能や断熱性能の改修は進まず、郊外や地方都市ほど空き家のまま放置されている。

したがって、これまでのように住宅に対して新しさを見た目にかざったり、広さや部屋数を求めるわけにはいかない様相である。これからの住まいづくりを担うであろう受験生諸君は、新築住宅の設計・施工だけが仕事になるとは限らず、中古住宅を扱う場面にも遭遇する可能性が大きい。建築分野に進まない生活者としても、空き家問題は避けて通れない社会問題としてのしかかるので、今後の対策についてそれぞれに考えてみてほしい。

解答例

問1:(214字)

- ・将来の新築住宅に対する需要の減少率よりも供給力の減少率の方が高いと予測され、相対的に新築住宅の供給力は落ちる。
- ・中古住宅は耐震性が不足しているものが多く、耐震性をクリアできても省エネ基準を満たさないため、住むには適さない。
- ・中古住宅の修繕ができる大工が減少傾向にあり、空き家が多い地方郊外ほど不足している。
- ・住宅を建てたり修繕したりできても、道路などの必須インフラを維持・修繕する建設人材が不足しており、住環境を整備することが難しい。

問2:(530字)

空き家の利活用について、以下の3方法を提案する。

- 1) 郊外型の中古住宅は、敷地面積が広く庭付きである場合が多いと予想されるので、室数を削減する解体をしたうえで、最低限の耐震改修と部分断熱改修を行い、庭木や花、野菜などを育てることを楽しむ「週末住宅」にする。居住者が平日の日中勤務である場合に限定されるが、平日は通勤・通学に便利な都心部にある狭小集合住宅に居住して過ごし、休日は郊外にある「週末住宅」で庭や畑を手入れして過ごす。ドイツにおける「クラインガルテン」の発想に基づく。
- 2) 地方にある中古住宅の場合、住まいとしてではなく、地場の農産物を直販したり、カフェやレストランに改修するなど、商業用スペースとして活用し、地方や郊外の活性化に役立てる。特に老朽化が激しい物件については解体し、来訪者用の駐車場や、テントを張ることができるキャンプ用スペースにし、昨今流行しているサウナ小屋も設置して集客を図る。
- 3) 中古物件の一部は、職業訓練校や建築系大学のサテライトキャンパス化して、改修・修繕の技術を教育／習得する場として活用し、そこで技術を習得した者は、将来優先的に気に入った物件を無料あるいは安価に入手することができ、それを改修して住まうことができる仕組みを作る。